

自己点検評価報告

2019年

京都大学人文科学研究所



I 研究所の概要

I 研究所の概要

目的

多民族・多文化間の調和ある共生に資する知見を人文科学の分野から発信している。2010年度より全国共同利用・共同研究の「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」として世界的視野から複数文化の生成、変動、相互交渉等を研究し、地球社会の調和ある共存に資する学術的知見を提供している。

組織

5部門(文化研究創生、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成)
2附属施設(東アジア人文情報学、現代中国)

研究体制

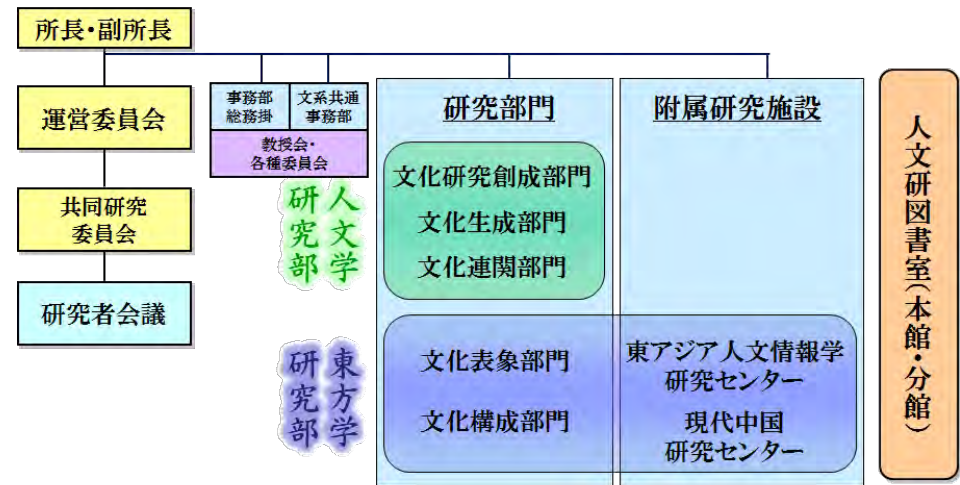
多様な関心に基づく個人研究
高頻度で開催されるハイレベルの共同研究
公募型16件、公募型以外16件（H30年度）

重点プロジェクト

「生きるための人文学」研究拠点形成
「みやこの学術資源」研究・活用

資料

圖書 約63万冊、雜誌 約9900種
他に考古美術資料約12万点、地理民俗資料約3万8千点、文革期刊行物資料約6万点、
華北交通写真資料約3万5千点、映画・演劇資料約1万5千点



Ⅱ 活動状況

1. 共同研究

(1) 共同研究の募集・種類

① 課題公募班(A班):

課題自体を公募(班長は所外の研究者)

一般: 原則3年、年10回前後の研究会を開催

若手: 班長は40歳未満、国際ミーティングの開催(年数回)とその成果報告の出版助成を主とする

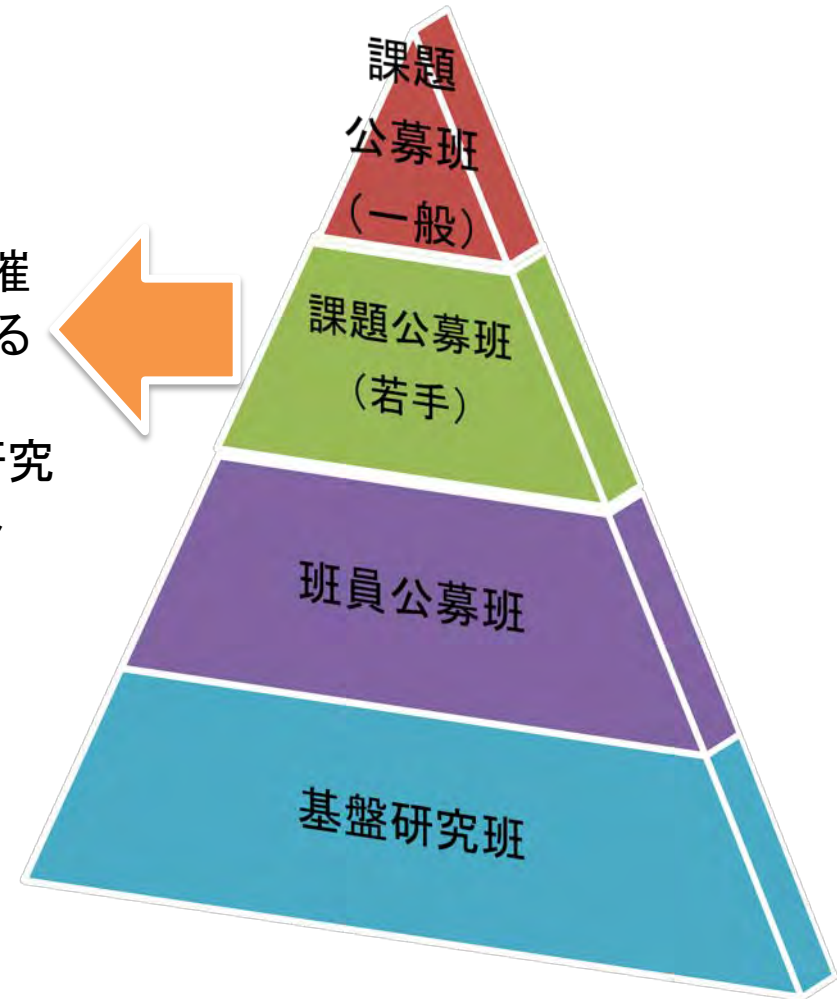
② 班員公募班(B班):

課題は所内で選考し、班員を募集し、所内の研究者が班長を務める3~5年のビッグ・プロジェクト

③ 基盤研究班(C班):

B班と同じく隔週または毎週、研究会を開催

課題の性質に合わせた多様な研究班が存在、C班がA・B班の基礎研究・リサーチの役割を果たすなど、相互に連携を保つ



1. 共同研究

世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究

3つのコンセプト



テーマ1 文化基盤の形成

■近世医学史の再構築

- 社会と宗教の連続性と非連続性
- インド古代祭式体系の継承
- 近代京都と文化
- 中国の初期仏教文化と石窟寺院
- 中国近世の学術観・学問論
- アジア古典文献コーパス
- 中国古代の基礎史料
- 漢籍リポジトリの形成
- 漢籍目録と学知の原風景
- 中国古代の法制と出土文字資料
- 中国仏教の教理と経典

テーマ2 接触とコンフリクト

■戦後日本映画史の再構築

- 帝国日本の「財界」形成
- 前近代ユーラシアの境界領域
- 転換期中国の社会経済制度
- 東西知識交流とアジアの科学文化
- 中国北朝期の仏教遺跡と文字資料
- チベット文明の継承と史的展開
- 前近代ユーラシア東方の戦争と外交

テーマ3 地球社会と共存

■人文科学の再批判と新展開

- 3世紀東アジアの歴史・考古
- アジアにおける人種主義
- 環世界の人文学
- 暴力・宗教・性の語り
- 21世紀の人文学
- 毛沢東とその表象及び現代中国

(課題公募班・若手を除く。
赤字は課題公募班・一般)

1. 共同研究

(2) 共同研究への参加状況

(2018年度延べ人数)



基盤研究班を除く

区分	延べ人数			
京都大学	817人	うち、 外国人 369人	うち、 若手研究者 (35歳以下) 189人	うち、 大学院生 300人
国立大学	303人			
公立大学	90人			
私立大学	459人			
大学共同利用機関法人	6人			
独立行政法人等	19人			
民間機関	54人			
外国機関	93人			
その他	773人			
合計	2614人	(うち、女性研究者 944人)		

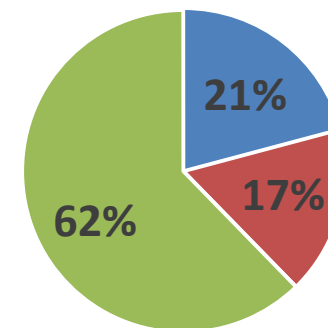
1. 共同研究

(3) 共同研究班の開催状況と班員構成

班員の所内・学内・学外割合

- ・ 毎週または隔週で研究会を開催
- ・ 班員の半分以上が学外のメンバーで構成

⇒ 開かれた共同研究拠点として活動



■ 所内 ■ 学内 ■ 学外

研究会の 開催状況

毎 週	3班
隔 週	15班
毎 月	3班
その他	5班
計	26班

班員の構成

班員の所属	人数
所内	151
学内	122
学外	451
(大学院生)	(72)
合計	724

学外所属の内訳	人数
国立	120
公立	40
私立	227
他	64

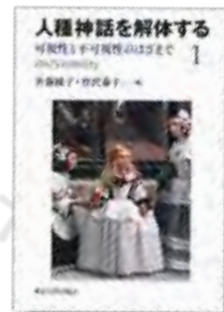
課題公募班(若手)を除く。
(2018年度実績)

1. 共同研究

共同研究方法論の伝統と継承

- 共同研究の「草分け」
- 3つの柱を軸として、設立以来の方法論を継承

竹沢泰子 編
『人種神話を解体する』
全3巻
2016年(平成28年)



桑原武夫
18世紀フランス研究
『ルソー研究』
1951年(昭和26年)

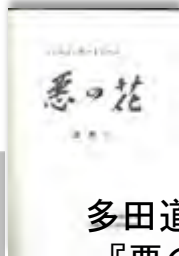


京都大学人文科学研究所編
『シルクロード発掘70年～雲岡石窟からガンダーラまで～』
2008年(平成20年)



学際的研究
学界セクショナリズム
の打破

多田道太郎 編
『悪の花 注釈(上・下)』
1986年(昭和61年)



原典の会読

吉川幸次郎
元代雜劇の研究
『元曲選釋』
1951・52年(昭和26・27年)



現地調査

水野清一
雲岡石窟調査
『雲岡石窟』中国語版
2014年(平成26年)－
2018年(平成30年)



1. 共同研究

共同利用・情報発信

研究班の課題・班員の公募を含めて
随時ウェブサイトの情報を更新
研究者コミュニティを通じた広報を推進

研究図書館機能
東方学デジタル図書館
人文学貴重資料

**東アジア人文情報学
研究センター**
発信方法の研究と実践

全国共同利用
拠点としての
研究支援・資料収集

全国漢籍データベース
文字字体変遷データベース
東洋学文献類目

デジタルアーカイブ
(非文字資料)

(赤字は重点事業)

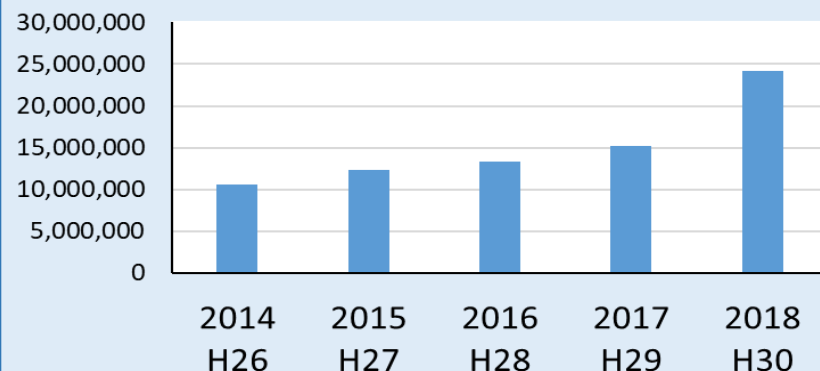
2. 共同利用

- データベースの利用状況
一日当たり利用件数 329,000件

データベース名	アクセス数
京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料(拓本文字データベース)	24, 138, 901
全国漢籍データベース	71, 323, 455
東洋学文献類目	10, 124, 855
CHISE 文字オントロジー	8, 610, 525
東方学デジタル図書館	5, 664, 369
所蔵中国雑誌	93, 576
地図	153, 533

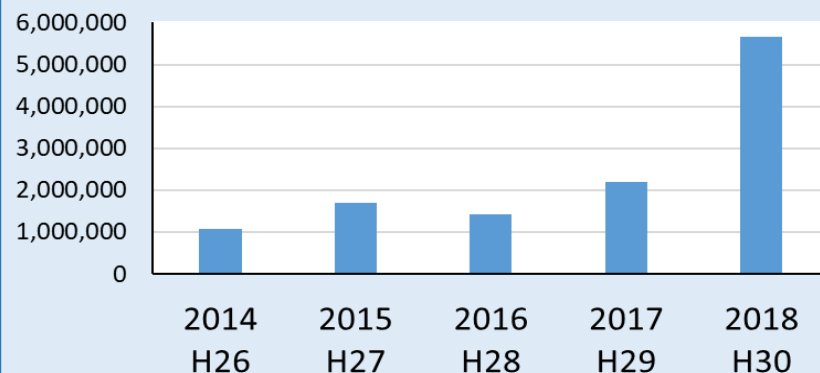
拓本文字データベース(2005年2月18日運用開始)

拓本文字データベース年度別アクセス数



東方学デジタル図書館(2003年10月20日運用開始)

東方学デジタル図書館年度別アクセス数



2. 共同利用

(2) 附属施設

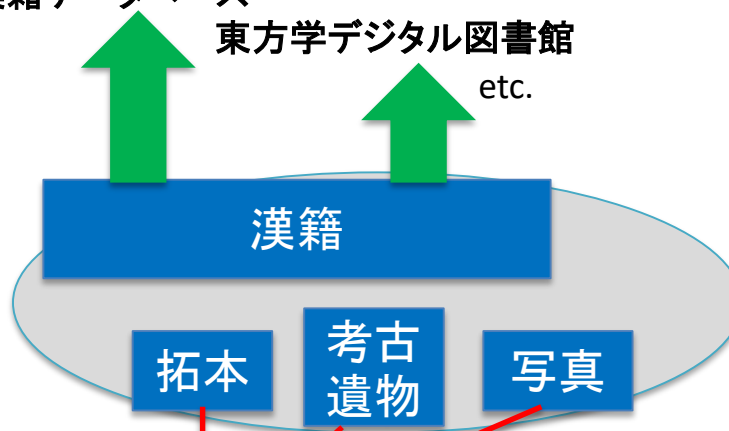
東アジア人文情報学研究センター

前身の組織を
2009年に改組

- 全国の図書館職員を対象とする漢籍担当職員講習会、一般の聴衆を対象とするTOKYO漢籍SEMINARを毎年開催
- 世界有数の漢籍を初め、多くの資料を収蔵、それらの汎用データベースを作成して、現物と同じく広く研究者などに公開



全国漢籍データベース
東方学デジタル図書館
etc.



拓本文字データベース
画像石データベース
雲岡石窟映画フィルム etc.



2. 共同利用

(2) 附属施設

現代中国研究センター



2007年設立

人文学的・歴史学的パースペクティブから現代中国を分析

二つのアプローチに基づく研究班により総合的に現代中国を把握
政治史・文化史のアプローチ 社会史・経済史のアプローチ

中国語・英語による積極的発信
出版と国際会議開催

研究基盤整備

国際シンポジウム開催

現代中国研究センター
関連刊行物

現代中国情報資料集積基地
(新聞・新編地方史・地図を収集)

現代中国共同研究室
(外国人・若手研究者が
共同利用)



2. 共同利用

(3) 重点プロジェクト

「生きるための人文学—文理芸融合による新学問領域の創成—」研究拠点形成

事業概要・これまでの取組実績

「共同研究」の元祖 人文科学研究所は、世界に例をみない人文学の総合研究拠点として、年25件程度の共同研究班・公募型共同研究・国際共同研究を組織し、その成果を世界に発信し、日本の人文学をリードしてきた。

分野をこえた“気づき”の場

多彩な共同研究参加者



人文研で発見しました！

知の交換

その文書、〇〇と
類似性がある！

芸術家

角田光代(小説家)・三輪眞弘(作曲家・情報科学芸術
大学院学長)・ジェイミー・アウスレー(ジャズミュージ
シャン・州立フロリダ国際大学)・能作文徳(建築家・東
京工業大学)・本原令子(陶芸家)等々

世界トップクラス研究者

中国のノーベル賞と言われる「長江研究
者」・欧米を代表する研究機関研究者

年1万人におよぶ共同研究参加者

正規共同研究班員724人(学外研究者
62%・院生・ポスドク研究者66人)

次なる課題は

思考の変遷の軌跡がわかる学術資源の総合的な調査・研究



「在野の芸術知を人文学へ摂取」「人文学の知を芸術の形式で発信」

協調性・柔軟性・普遍性をもつ日本文化のもとで、欧米・異分野の学知を吸収・融合・発展させて新たな学知を構築し、日本人の思考と言葉で世界に
発信してきた日本の人文学の伝統を継承し、**文芸理を融合**させることで「大きな物語」＝未来像を創造し、多言語で世界に発信

【文芸理融合】科学と人文学と芸術は本来、人の真理認識の形式として不即不離の関係にある。

偉大な科学者たちが、芸術からインスピレーションを受けてきたことは偶然ではない。

「文」と「理」の融合、そこに「芸術」を加えて三位一体のものとして世界を把握する試みが完結する。

2. 共同利用

(3) 重点プロジェクト

「みやこの学術資源」研究・活用

事業概要



京都大学

- ・人文科学研究所
- ・文学研究科
- ・総合博物館(研究資源アーカイブを含む)
- ・大学文書館
- ・附属図書館

・京都国立博物館

・国立民族学博物館

・アンスティチュ・フランス

・京都市美術館

・アジア臨地研究欧州コンソーシアム(ECAF)

・泉屋博古館

・フランス国立極東学院(EFEO)

・イタリア国立東方学研究所(ISEAS)

・日本イタリア会館

学術関係機関

学術資源の掘り起し

絵画資料

映像資料

文書

図譜

図書

先端的人文学の機能強化

京都研究の再構成

- ・100年後の人文学への学知の伝達・継承
- ・学術資源の蓄積、フィールドワークの伝統

思想史・歴史学・文学

農学・医学・社会学・人類学

ヨーロッパ研究・美術史・文化財学・アジア研究

学術資源情報の公開

調査された学術資源の
データ目録を作成

研究成果の国際発信

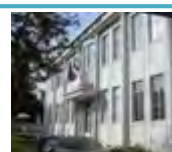
調査 発掘



共同研究
共同事業

整理 研究

京都
国立
博物館



アンスティチュ・
フランス

公開 発信

近代日本・近代京都
研究の国際拠点
みやこの学術資源研究
プロジェクト

事業の目的・必要性・重要性

目的

学術資源に基づく、日本・京都の先端的人文学
の学問的再構成と国際発信

「みやこの学術資源研究」
プロジェクトの推進

近代日本・近代京都研究の
国際的研究拠点へ

必要性・ 重要性

学術資源の発展的継承

学術資源の継承・整理・解析の重要性に鑑み、平安京以来の伝統を有する京都の立地を活かし、その拠点としての「みやこの学術資源研究」プロジェクトを推進する。

学術資源を統括するハブ機能の形成

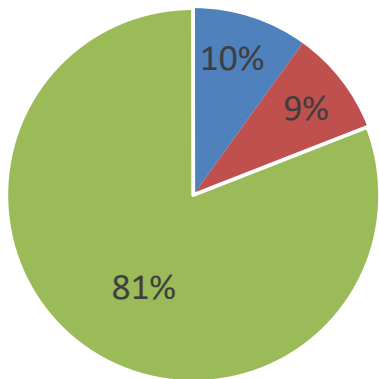
「みやこの学術資源研究」プロジェクトでは、今までの人文科学研究所の実績を活かし、①学内のネットワーク形成、②学術資源の調査・整理・研究、③国際的な学術関係の強化、情報発信、④先端的人文学の機能強化という4つの事業に関してハブ機能を形成する。

3. 共同研究を通じた人材育成

(1) 大学院生、ポスドク研究者への参加を呼びかけ

共同研究班員の構成
(全体の約2割が大学院生、ポスドク)

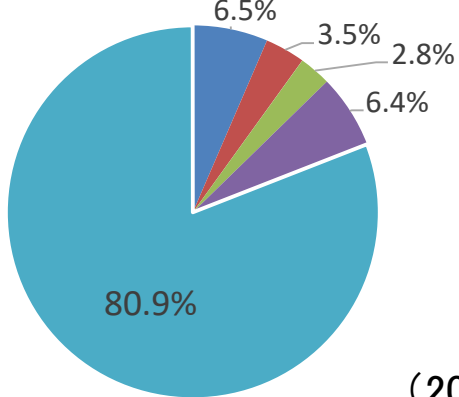
班員の大学院生・ポスドク割合(概要)



■ 大学院生 ■ ポスドク ■ その他

院生・ポスドクの約1割が学外から参加

班員の大学院生・ポスドク割合(詳細)



(2018年度実績)

■ 大学院生(学内) ■ 大学院生(学外) ■ ポスドク(学内) ■ ポスドク(学外) ■ その他

(2) 日本学術振興会特別研究員や海外の若手研究者の積極的受入れ

学振 特別研究員	研修員	研究生	研究員	R A	オフィス・ アシスタント	研究支援 推進員	合計
13	0	1	1	5	11	3	34

(2018年度実績)

4. 共同研究でしか成し得ない研究成果

8年間にわたる第一次世界大戦の共同研究

『レクチャー 第一次世界大戦を考える』(人文書院、2010～2014年)

『現代の起点 第一次世界大戦 1～4巻』(岩波書店、2014年4～7月刊)

現代世界の起点ともいべき第一次世界大戦に関する8年間の共同研究の成果を、人文書院のシリーズ「レクチャー 第一次世界大戦を考える」(全12冊)、岩波書店の『現代の起点 第一次世界大戦 1～4巻』等のかたちで刊行。



『人種神話を解体する 1～3巻』

(東京大学出版会 2016年9～11月刊)

日本の被差別部落、アイヌ、天皇制、ロマ、韓国の白丁、アメリカの黒人、また人種神話を生み出す科学知とそれを解体する新たな科学知、そして歴史的「混血児」表象からミックスレイスの人々の生き方までを扱いながら、グローバルに通底する人種表象・人種主義のしくみに迫った書

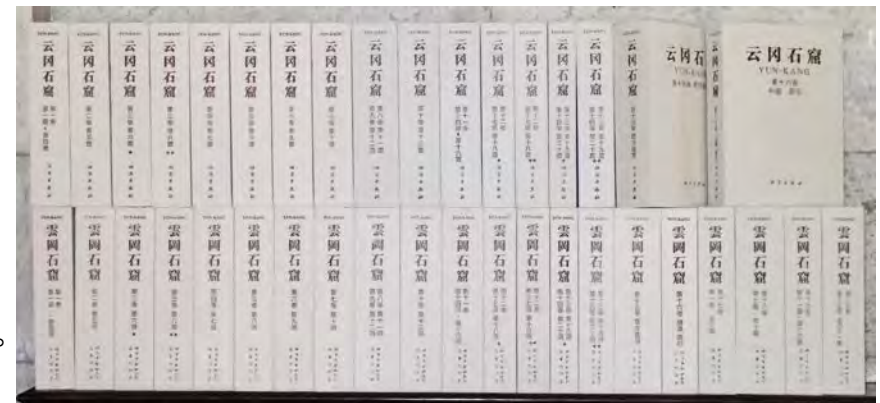
『雲岡石窟』全20巻42冊

(日英語版: 科学出版社東京・国書刊行会 2013～2017年)

(中国語版: 科学出版社 2014～2018年)

龍門と敦煌に並ぶ中国三大石窟の1つである雲岡石窟を包括的に調査した報告書。

中国社会科学院考古研究所との共同編集により既刊の16巻に4巻9冊を増補。



5. 外国人研究者等の受入人数（2018年度）

招へい研究員	招へい 外国人学者	外国人 共同研究者	研修員	研究生
10	18	12	0	8

外国人研究者等出身国

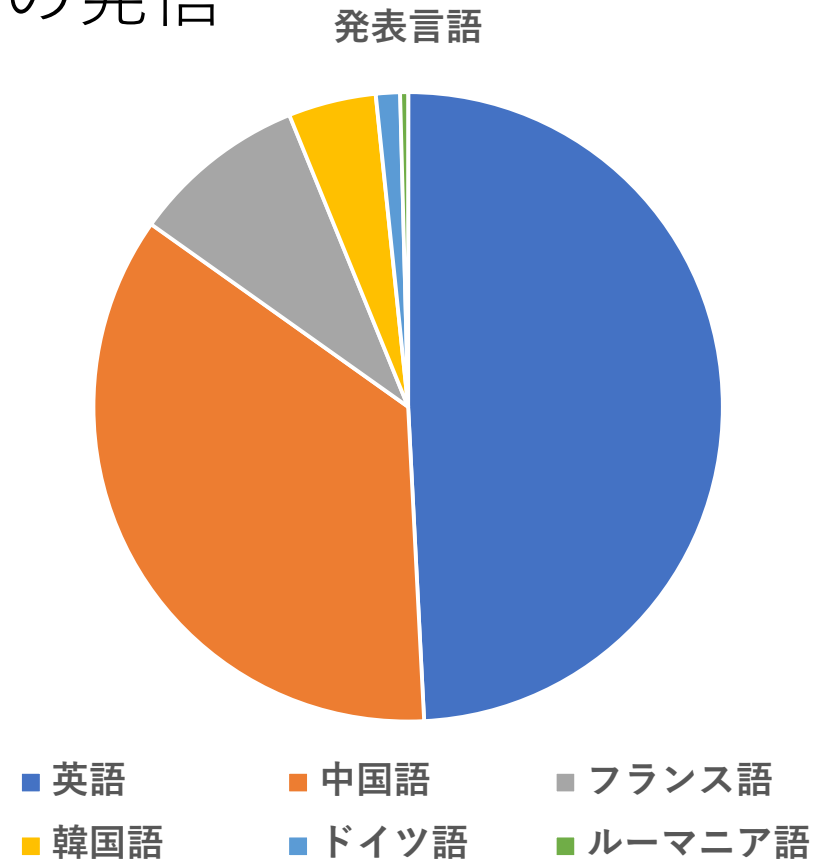
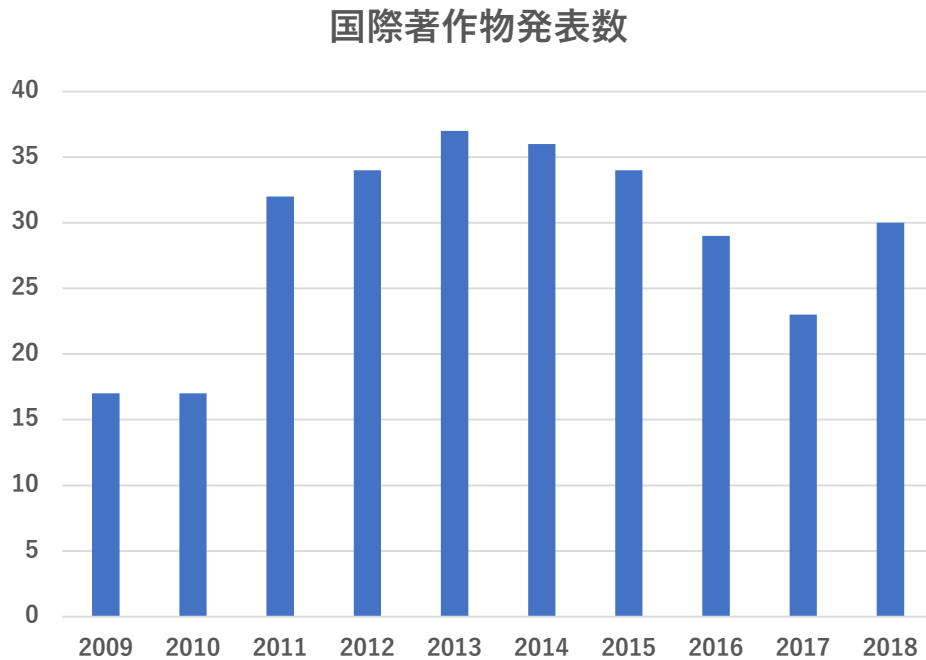
中国、台湾、韓国、アメリカ、カナダ、フランス、スイス、
オランダ、イギリス など

6. 学術交流協定締結状況

- ・フランス: フランス政治学財団(シアンス・ポ)、ヨーロッパ・アジア研究コンソーシアム、
LABEX(Excellence Laboratory) TEPSIS
- ・ドイツ: ミュンスター大学中国学研究所、ハンブルク大学アジア・アフリカ研究所
- ・アメリカ合衆国: ハーバード燕京研究所
- ・韓国: 東国大学校文化芸術院、高麗大学校民族文化研究院
- ・中国: 中国政法大学法律古籍研究所、華東政法大学法律史研究中心、
南京大学域外漢籍研究所
- ・台湾: 中央研究院歴史語言研究所、中央研究院近代史研究所、
中央研究院台灣史研究所、台灣大学文学院日本研究中心、台灣国家図書館
(16機関)

7. 国際著作物(著書・論文など)

- 毎年多数の成果：10年間で289件
- 英・中・仏・韓など多言語での発信



8. 科学研究費補助金取得状況（2018年度）

	新学術領域研究 （研究領域提案型）		基盤研究S		基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		挑戦的 萌芽研究		若手研究A		若手研究B	
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
件数		1	1	1	2	2	1	5	8	9		3		1	2	1
金額（千円）		1,900	27,900	23,900	13,600	16,100	3,000	15,100	8,500	7,500		2,400		9,300	2,000	700

	国際共同研究 加速強化		研究活動 スタート支援		研究成果促進経費 （学術図書）		特別研究員 奨励費		外国人特別研究員 奨励費		合 計		
	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	計
件数		1	1		1		3	10	1	3	20	37	57
金額（千円）			1,200		1,100		3,100	8,433	800	2,500	61,200	87,833	149,033

9. シンポジウム等の実施状況(2018年度)

(1) 研究者を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 21件
 - ②セミナー・ワークショップ等 11件
- 合計32件(参加人数:586人)

(2) 一般の方を対象とするもの

- ①シンポジウム・講演会 13件
 - ②セミナー・公開講座等 11件
- 合計 24件(参加人数: 1,959人)

